



<PRESS RELEASE>

2012年3月26日

日本唯一の FIFA 公認 U-12 国際サッカー大会！  
「**ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN 東京会場予選**」を実施！  
**“世界につながる”決勝大会への最後の切符を4チームが獲得！！**  
～福島から出場した“Vamos 福島ホワイトリバーフットボールクラブ”も奮闘！～

ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN 実行委員会

「ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN」(特別協賛:ダノンジャパン株式会社、ダノンウォーターズオブジャパン株式会社)は、3月25日(日)、東京都世田谷区、駒沢オリンピック公園総合運動場において、今年度最後の予選大会となる東京会場予選を実施いたしました。“世界につながる”決勝大会への残り4枚の切符をかけた激闘の末、「横河武蔵野フットボールクラブジュニア(東京)」、「パディーSC(神奈川)」、「コスモサッカークラブ川越(埼玉)」、「大宮アルディージャ ジュニア(埼玉)」の4チームが決勝大会へと進出することが決定いたしました。※大会当日の詳細は次頁をご参照ください。

東京会場予選では、関東地方を中心に、静岡、新潟、福島、岩手など全国から合計32チームが参加し、予選リーグ、決勝進出チーム決定戦を行いました。当日は春を感じさせる暖かな日差しの下、大会アンバサダーである北澤豪さんも会場に駆け付け、決勝大会進出をかけたハイレベルで白熱した試合が展開されました。また、福島県から出場した「VAMOS福島ホワイトリバーフットボールクラブ」は、放射線の影響により普段屋外での練習ができない厳しいサッカー環境にも関わらず奮闘をしました。残念ながら予選リーグで敗退したものの、印象的なプレーをみせてくれました。

「ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN」は、“日本で唯一世界につながる”財団法人日本サッカー協会後援のU-12サッカー大会です。決勝大会を勝ち抜いた優勝チームは、「ユーロ2012」の開催地でもあるポーランドで今年秋に行われる世界大会へ日本代表チームとして出場します。世界大会である「ダノンネーションズカップ」は、“U-12世代の世界一”を決めるFIFA公認国際サッカー大会で、世界40カ国の代表チームによるハイレベルな試合が行われます。今年の国内大会もいよいよ残すは決勝大会のみとなりました。世界へ挑戦するU-12日本代表チームを決定する「ダノンネーションズカップ in JAPAN 決勝大会」に是非ご注目下さい。

#### <ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN 東京会場予選 大会結果>

- 大会名 : ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN 東京会場予選
- 開催日時 : 2012年3月25日(日)
- 開催会場 : 駒沢オリンピック公園総合運動場 補助競技場・第二球技場  
(東京都世田谷区駒沢公園 1-1)
- ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN 決勝大会進出チーム
  - ◆ 横河武蔵野フットボールクラブジュニア(東京)
  - ◆ パディーSC(神奈川)
  - ◆ コスモサッカークラブ川越(埼玉)
  - ◆ 大宮アルディージャ ジュニア(埼玉)

#### <本件に関するお問い合わせ>

ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN PR 事務局  
担当 株式会社フルハウス 山下・佐野  
Tel:03-5413-0293 Fax:03-3401-8085 E-mail s.yamashita@fullhouse.jp  
大会当日のご連絡先: 080-5227-9406(山下)



## 「ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN 東京会場予選」 大会レポート

「ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN」の東京会場予選が3月25日(日)に駒沢オリンピック公園で行われ、参加32チームが3月31日から4月1日にかけて同会場で行われる決勝大会の出場権を争った。会場はピッチを駆け回る子どもたちの黒い影が色濃く見えるほどの好天に恵まれ、大会はスムーズに進行。開会式では出場チームが一堂に会し、全カプレーと健闘を誓った。DJのアナウンスによる合図が送られると、第二競技場と補助競技場に各2面用意された計4面のピッチで予選リーグ4試合が同時にキックオフした。

各予選リーグでは、上位2位を目指した熱戦が繰り広げられた。派手なゴールラッシュで3連勝を飾り1位通過を決めて笑顔を見せるチームがあれば、敗れても失点する度に顔を上げて挑戦し続けるチームの姿もあった。昨年3月11日の東日本大震災以降、チーム名の頭に「Vamos(ポルトガル語で「がんばろう」)福島」を付けて活動しているというホワイトリバーフットボールクラブは、敗れながらも成果を持ち帰る象徴的なチームだった。予選グループは1分2敗で最下位となったが、ドリブルにこだわりを持つプレースタイルを存分に発揮。特に順位決定戦では、「なでしこジャパンの澤穂希選手や大野忍選手のようなスピードを身につけたい」と相手ディフェンスに果敢にドリブル勝負を挑んだ女子選手の遠藤純さんが2得点を挙げるなど奮闘した。彼女の父でもある遠藤淳監督は「ドリブルが通用したのは良かった。あとはシュートまで持っていくところが課題。強い相手と戦ってできることと、まだできないことが分かったと思う。地元では放射線量の影響で屋外活動ができず、室内で練習をしてきた。今日は、大会の雰囲気が良いので大人も子どもも盛り上がった。すごく楽しむことができたと思う」と伸び伸びとプレーした教え子たちの健闘を喜んだ。

決勝大会進出チーム決定トーナメントでは、8つに分かれた予選グループの各上位2チームが激しく火花を散らした。1回戦では、2試合がPK戦決着となる接戦。そして運命をかけた代表決定戦では4チームが見事に決勝大会への切符をつかんだ。コスモサッカークラブ川越(埼玉県)は出場した新6年生が一期生。クラブの歴史は浅いが、最後は5得点の快勝で実力を発揮した。高杉学監督は「決勝大会では後輩たちのためにシード権獲得を目指して頑張ってもらいたい」とさらなる活躍に期待をかけた。バディーSC(神奈川県)は、全日本少年サッカー大会を制覇したこともある全国区の強豪でこちらも最終戦は8得点と自慢の攻撃力を見せつけた。横河武蔵野フットボールクラブジュニア(東京都)はFCトッカーノとの東京勢対決で2-0の完封勝利。大宮アルディージャジュニア(埼玉県)はSALFUS oRs(静岡県)との1点を争う死闘を制して勝負強さを示した。

閉会式では、予選グループで好セーブを連発したムスタングFCのGK清水優斗君が大会MVPを受賞。また、決勝大会進出4チームの主将が大会アンバサダーの北澤豪さん(元サッカー日本代表)から激励を受け、バディーSCの平松功輝君は「負けたチームの分まで頑張りたい」と大会で得た刺激を次のステップにつなげることを誓った。北澤さんは「これまでの大会で一番盛り上がった印象を受けた。これからもたくさん、頑張る人を称賛する場を設けたい」とあいさつ。選手やスタッフだけでなくレフェリーや観客も含めた大会関係者全員にみんなで拍手を贈る機会を設けて大会を締めくくった。すっかり暗くなったピッチはライトに照らされていたが、暗闇の中でも子どもたちの清々さと笑顔は変わらない。会場を後にする「ありがとうございました！」の元気なあいさつがあちこちで響いていた。



予選リーグ

A	チーム名	フットボールクラブ日立	飛田給FC	鳥山北フットボールクラブ	Vamos福岡ホワイトリバーフットボールクラブ(福岡県)	勝分敗	勝点	得点	失点	得失点差	順位
A 1	フットボールクラブ日立(茨城県)		0 ● 1	0 ● 1	0 △ 0	0 勝 1 分 2 敗	1	0	2	-2	3
A 2	飛田給FC(東京都)	1 ○ 0		0 △ 0	2 ○ 0	2 勝 1 分 0 敗	7	3	0	3	1
A 3	鳥山北フットボールクラブ(東京都)	1 ○ 0	0 △ 0		1 ○ 0	2 勝 1 分 0 敗	7	2	0	2	2
A 4	Vamos福岡ホワイトリバーフットボールクラブ(福岡県)	0 △ 0	0 ● 2	0 ● 1		0 勝 1 分 2 敗	1	0	3	-3	4

B	チーム名	栗の実サッカークラブ	ムスタングFC	W.O.Fオールスターズ	SEKIYA S.C.	勝分敗	勝点	得点	失点	得失点差	順位
B 1	栗の実サッカークラブ(東京都)		5 ○ 1	2 ○ 0	3 ○ 0	3 勝 0 分 0 敗	9	10	1	9	1
B 2	ムスタングFC(東京都)	1 ● 5		0 ● 3	0 ● 3	0 勝 0 分 3 敗	0	1	11	-10	4
B 3	W.O.Fオールスターズ(神奈川県)	0 ● 2	3 ○ 0		1 △ 1	1 勝 1 分 1 敗	4	4	3	1	2
B 4	SEKIYA S.C.(神奈川県)	0 ● 3	3 ○ 0	1 △ 1		1 勝 1 分 1 敗	4	4	4	0	3

C	チーム名	横河武蔵野フットボールクラブジュニア	ザスバ草津U-12	FC水戸ホーリーホックジュニア	アルビレックス新潟ジュニア	勝分敗	勝点	得点	失点	得失点差	順位
C 1	横河武蔵野フットボールクラブジュニア(東京都)		1 ○ 0	3 ○ 0	1 ○ 0	3 勝 0 分 0 敗	9	5	0	5	1
C 2	ザスバ草津U-12(群馬県)	0 ● 1		3 ○ 0	1 ● 2	1 勝 0 分 2 敗	3	4	3	1	2
C 3	FC水戸ホーリーホックジュニア(茨城県)	0 ● 3	0 ● 3		1 ○ 0	1 勝 0 分 2 敗	3	1	6	-5	4
C 4	アルビレックス新潟ジュニア(新潟県)	0 ● 1	2 ○ 1	0 ● 1		1 勝 0 分 2 敗	3	2	3	-1	3

D	チーム名	清瀬フットボールクラブ	リハティススポーツクラブ	エルマーズフットボールクラブ	SaLFUS oRs	勝分敗	勝点	得点	失点	得失点差	順位
D 1	清瀬フットボールクラブ(東京都)		0 ● 1	1 ● 3	0 ● 5	0 勝 0 分 3 敗	0	1	9	-8	4
D 2	リハティススポーツクラブ(埼玉県)	1 ○ 0		1 △ 1	0 ● 11	1 勝 1 分 1 敗	4	2	12	-10	3
D 3	エルマーズフットボールクラブ(東京都)	3 ○ 1	1 △ 1		0 ● 4	1 勝 1 分 1 敗	4	4	6	-2	2
D 4	SaLFUS oRs(静岡県)	5 ○ 0	11 ○ 0	4 ○ 0		3 勝 0 分 0 敗	9	20	0	20	1

E	チーム名	NEOS FOOTBALL CLUB	バディーSC	FCTレーロス	柏イーグルスTOR' 82	勝分敗	勝点	得点	失点	得失点差	順位
E 1	NEOS FOOTBALL CLUB(埼玉県)		0 ● 6	1 ○ 0	0 ● 1	1 勝 0 分 2 敗	3	1	7	-6	3
E 2	バディーSC(神奈川県)	6 ○ 0		2 ○ 0	0 ● 2	2 勝 0 分 1 敗	6	8	2	6	2
E 3	FCTレーロス(東京都)	0 ● 1	0 ● 2		0 ● 1	0 勝 0 分 3 敗	0	0	4	-4	4
E 4	柏イーグルスTOR' 82(千葉県)	1 ○ 0	2 ○ 0	1 ○ 0		3 勝 0 分 0 敗	9	4	0	4	1

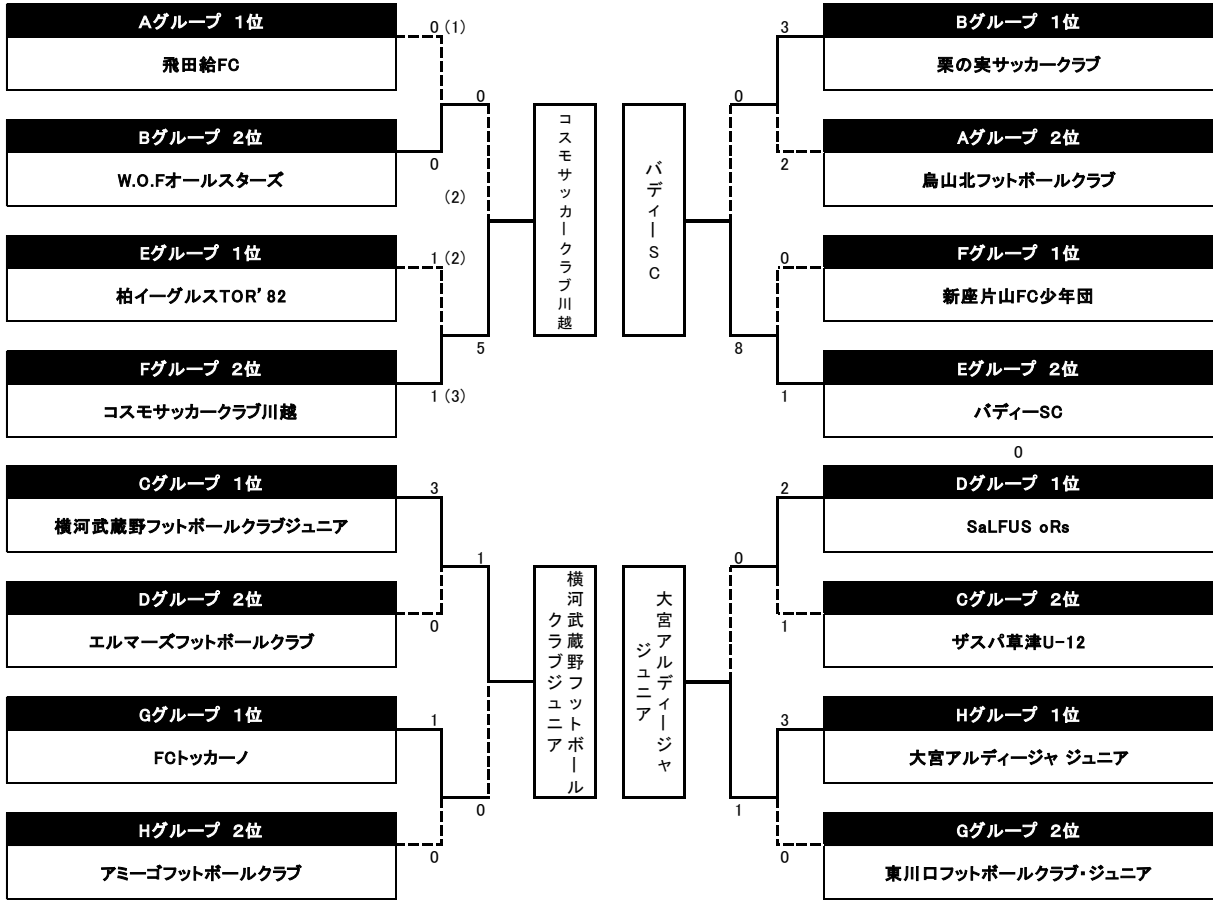
F	チーム名	三菱養和サッカークラブ調布ジュニア	城北アスカF・C	新座片山FC少年団	コスモサッカークラブ川越	勝分敗	勝点	得点	失点	得失点差	順位
F 1	三菱養和サッカークラブ調布ジュニア(東京都)		7 ○ 0	0 ● 1	0 ● 2	1 勝 0 分 2 敗	3	7	3	4	3
F 2	城北アスカF・C(東京都)	0 ● 7		0 ● 5	0 ● 4	0 勝 0 分 3 敗	0	0	16	-16	4
F 3	新座片山FC少年団(埼玉県)	1 ○ 0	5 ○ 0		4 ○ 0	3 勝 0 分 0 敗	9	10	0	10	1
F 4	コスモサッカークラブ川越(埼玉県)	2 ○ 0	4 ○ 0	0 ● 4		2 勝 0 分 1 敗	6	6	4	2	2

G	チーム名	FCTツーカーノ	東根少年サッカークラブ	ヴァレンテとおのサッカースポーツ少年団(岩手県)	勝分敗	勝点	得点	失点	得失点差	順位	
G 1	FCTツーカーノ(東京都)		2 ○ 0	1 ○ 0	1 △ 1	2 勝 1 分 0 敗	7	4	1	3	1
G 2	東川ロフトボールクラブ・ジュニア(埼玉県)	0 ● 2		1 △ 1	1 ○ 0	1 勝 1 分 1 敗	4	2	3	-1	2
G 3	東根少年サッカークラブ(東京都)	0 ● 1	1 △ 1		0 ● 2	0 勝 1 分 2 敗	1	1	4	-3	4
G 4	ヴァレンテとおのサッカースポーツ少年団(岩手県)	1 △ 1	0 ● 1	2 ○ 0		1 勝 1 分 1 敗	4	3	2	1	3

H	チーム名	アミーゴフットボールクラブ	キタ80フットボールクラブ	あざみ野キッカーズ	大宮アルディージャジュニア	勝分敗	勝点	得点	失点	得失点差	順位
H 1	アミーゴフットボールクラブ(東京都)		3 ○ 0	2 ○ 1	0 ● 6	2 勝 0 分 1 敗	6	5	7	-2	2
H 2	キタ80フットボールクラブ(東京都)	0 ● 3		0 ● 3	0 ● 1	0 勝 0 分 3 敗	0	0	7	-7	4
H 3	あざみ野キッカーズ(神奈川県)	1 ● 2	3 ○ 0		0 ● 4	1 勝 0 分 2 敗	3	4	6	-2	3
H 4	大宮アルディージャジュニア(埼玉県)	6 ○ 0	1 ○ 0	4 ○ 0		3 勝 0 分 0 敗	9	11	0	11	1



決勝進出チーム決定トーナメント





## ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN 大会概要

- 大会名称 :ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN
- 主催 :ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN 実行委員会
- 主管 :財団法人東京都サッカー協会、財団法人愛知県サッカー協会、  
社団法人大阪府サッカー協会、社団法人宮城県サッカー協会
- 後援 :文部科学省、外務省、財団法人日本サッカー協会、共同通信社
- 特別協賛 :ダノンジャパン株式会社、ダノンウォーターズオブジャパン株式会社
- 協賛 :SPX フローテクノロジージャパン株式会社、  
北関東トウエンティワン流通事業協同組合、鴻池運輸株式会社、  
清水建設株式会社、ダイセイエブリー二十四株式会社、高砂熱学工業株式会社、  
株式会社竹中工務店、日世株式会社
- 協力 :アディダスジャパン株式会社、凸版印刷株式会社、プラス株式会社

### ■大会趣旨

- ・世界大会でプレーできる切符を手にする機会を、日本の子供たちに広く提供する。
- ・サッカーを通じて、フェアプレー精神、チームワーク、他チームとの交流や親睦を図り、健全な心身を育てる場を提供する。
- ・サッカーを通じて、子供たちに社会貢献や国際交流に目を向けてもらう機会を提供する。

### ■大会日程

#### <予選大会>

- ・大阪会場予選 2012 年 3 月 4 日(日) 大阪府・J-GREEN 堺
- ・特別予選大会 2012 年 3 月 10 日(土) 宮城県・アディダススポーツパーク
- ・愛知会場予選 2012 年 3 月 18 日(日) 愛知県・豊田市運動公園
- ・東京会場予選 2012 年 3 月 25 日(日) 東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場

#### <決勝大会>

2012 年 3 月 31 日(土)、4 月 1 日(日) 東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場

### ■参加チーム数

#### <予選大会>

大阪・愛知・東京予選会場 各 32 チーム × 3 会場(計 96 チーム)

特別予選大会 12 チーム

#### <決勝大会>

予選大会上位 12 チーム + 特別予選大会上位 2 チーム + 前年度決勝大会ベスト 18 チーム



## ダノンネーションズカップについて

2000年から開催している FIFA 公認の U-12 サッカー世界大会であり、元フランス代表のジダン氏が大会のアンバサダーを務めています。現在は世界 40 カ国で予選を行い、250 万人以上の少年・少女が参加しています。2012 年の日本大会では、東京・愛知・大阪の 3 カ所で予選を行い、今秋ポーランドで行われる第 13 回世界大会に出場する日本の代表チームを決定します。

「ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN」ホームページ (<http://www.danonecup.jp>)

## “東北応援プロジェクト”について

「ダノンネーションズカップ」は、単に小学生サッカー大会を実施するだけでなく、そこに集まる子どもたちに、社会貢献や国際交流に目を向けてもらうことも、大会趣旨の一つとしています。「東北応援プロジェクト」は、そうした大会趣旨に基づき、社会貢献の一環として、2011 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災において主な被災地となった東北地方を、大会に参加するみんなと一緒に応援しよう、というプロジェクトです。

## “特別予選大会 in 宮城”について

東日本大震災の発生から約 1 年。震災発生直後から比べると、被災地の状況は少しずつ変化を見せ、被災地のサッカーを愛する子どもたちにとっても、緊急物資が必要だった時期は過ぎ、今は「本気になってサッカーに挑む」、試合や大会などといった真剣勝負の場が求められています。そこで、2012 年大会においては、「東北応援プロジェクト」として、震災から 1 年後の 2012 年 3 月 10 日に、改めて震災で被害に遭った方々に対しての追悼の意を表すとともに、被災地の子どもたちが参加できるサッカー大会を開催することで、少しでも復興支援のお手伝いができれば、と考えました。

## ダノンジャパンについて [www.danone.co.jp](http://www.danone.co.jp)

ダノンは、25 年以上にわたり、日本の消費者の皆様にも栄養価のあるチルド乳製品をお届けしています。今日では、「ダノンビオ」、「ダノンデンシア」、「プチダノン」、「ベビーダノン」、「ダノンヨーグルト」の製品を取り揃え、おいしさだけでなく、ヘルシーな食品をお届けしています。

## ダノングループについて [www.danone.com](http://www.danone.com)

ダノングループは、フォーチュン 500 に数えられ、世界において最も成功を収めているヘルシーな食品をお届けする企業のひとつです。世界中のできるだけ多くの人々に、食品を通じて健康をお届けすることを使命に掲げています。この使命を達成していくことが、ダノングループの継続的な力強い成長の原動力となっています。現在、全世界において五大洲 120 カ国以上で事業を展開しており、約 8 万人の従業員を擁し、約 160 の工場があります。2011 年度売上 193 億ユーロを誇り、チルド乳製品（世界第 1 位）、ウォーター（世界第 2 位）、乳幼児向け食品（世界第 2 位）、および医療用栄養食の 4 つのビジネスを核としたヘルシーな食品をお届けする企業として確固たる地位を築いています。

Euronext Paris 上場企業。社会貢献活動としては、Dow Jones Sustainability Index STOXX and World, ASPI Eurozone、Ethibel Sustainability Index に入っています。